

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成21(2009)年
4月号

通巻464号
毎月23日発行

(題字 矢追日聖)

発行日 平成21年4月23日
発行所 大倭出版局
〒631 0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44 0015
印刷 大倭印刷株式会社
定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
振替口座 01050667002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



桜の花と法主さん 奈良市 井手 泉さん撮影

昭和38(1963)年4月8日 須佐緒祭法話より

宗教の心を社会の底に

法主 矢追 日聖 (満51歳)

毎年この四月八日は、大倭教では須佐緒祭です。朝からしとしと春雨が降っており、昨日満開だった大本宮の桜も、この雨でちらほらと池の面に花びらが散っております。

大倭の家の子たちは、こうした環境によって知らず知らずのあいだに宗教というものを理解し、大倭の味ということについては良くわかっていっていると思うんです。けれども、今日まで宗教的な教理をあまり教えていなかったため、それを振り返って自分の頭で整理していくことは出来ないと思うんです。そういう意味において今日は幸い家の者ばかりですから、例え少しでも宗教の根本に触れてくれたらいいと思うんです。

須佐緒とは

この須佐緒祭は、神の道、即ち大倭の神ながらの宗教においては、重大な意味のある記念日、お祭りの日に当たるんです。須佐緒ということは、大和言葉で物と物をつなぎ合わせる「結び」という役割のことなんです。

スサは非常に古い言葉で、二千年三千年の大昔においては常に使われていたんです。仏教が伝来してからその大和言葉は、因縁というように、支那の言葉の「縁」という漢字を用いて表すようになったので、会話においては段々と使われなくなってきました。日常我々が見ていることでは、建築に使っております壁土の中に藁などを入れることを依然として

神ながらに、「スサを入れる」とか「スサを交える」とか言い、かろうじて現代に残っているんです。

今日こうした集団社会において、我々の目にも見えるようないろいろな繋がりがありません。例えばこの着物一つでも、自分が作ったんじゃないんですね。世間の誰かが作った物を自分が着ているんです。それに対して金を支払うと、相手はそれを受け取って物をくれるというような結び。これがスサですね。

あるいは、形でない心と心のスサというものもあります。世の中に、それがなければ平和にいかない。暴力を以って立つような戦国の世のように、奸智に長けた力の強い者が天下に名を成していくことになるんです。

お互いにこのスサということを見つめ、結びとすることを考えた場合、一番円滑にいく代表的なものは、夫婦の場合なんです。夫婦は、肉体的なスサというものと、精神的結びというものがなければ、うまくいかないんです。

今、うちの若い者は独身が多いですが、いつかは夫婦となる日があるでしょう。その時のこのスサという結びは、女と男がきつちりとひつつくところですね、これは一番大事な問題なんです。今の言葉ではセックスと言っていますけど、そんな簡単なものではない。目に見えた肉體、目に見えない心、両方のものを一つのものにする、融和していく。それがスサの働きなんです。そうして生まれる子供はスサの緒によって出来ているので、夫婦をがっちり括る楔の役目をするんです。

そういうように、物と物とをしつくりと繋ぎ合わせるということをする。今の言葉では結びとすることですね。「緒」というのは紐ですが、これも仏教で言うたら因縁とか縁とかいうことな

んです。だから、この「須佐緒」ということは、神ながらの宗教の上におきましては、教理の根本の一つであり、非常に重大な役割を演じているし、「縁」という言葉で仏教の中においても重大な意味を持ってあります。

そうしたスサの働きを今日は記念する日なんです。偶然にもお釈迦さんの誕生日にも当たっているらしい。お釈迦さんも、そうしたスサによって生まれて来ているんです。だから今日は芽出度い日なんです。そのように宗教の根本のスサということ一つ理解しても、かなり神ながらの道が分かるんです。

宗教の第一歩の難しさ

これは昔から喧しく言ってきたんですが、宗教が一番大事なことは、現在ここに存在して生きていく、この自分ということをはっきり自覚する、はっきり知ること。けれども、それはなかなか難しいことなんです。

俗に世間は鏡であるからと言って、世間の人から見た自分に対しての見た目とか批評によって自分を知るといふような表現の仕方をよくしております。そのようにして、自分に対してのいろいろなことを他人から聞くことも、なるほど自己を知る一つの方法であるんです。けれども見る人によって各々の心が違うんですから、その的確に教えてはくれません。

それで昔から、宗教とか信仰というものの第一条件は、自分で自分を知ることだったんです。神様と自分が差し向かいになって、自分の良いところはここにあって、また自分の欠点はここにあって、いわゆる自己をよく反省して自分を知ること、宗教の第一歩であるんです。

今日までの在来の宗教のあり方を見てみると、自己を知る、自分を悟るといふ方法は各宗教団体において異なっています。

仏教でも、禅宗では現在でも盛んにやっておりますけれども、お堂の仏さんのところで座禅して、いろいろ考え自分を悟って悟りの境地を拓いていくという方法です。それは良いことなんです。自分だけが宗教的醍醐味の悦に入って、自分さえ納得して悟れたらいいんだというような、自分中心の行き方で終わるなら十分ではないんです。

ここ大倭でやっているのは、一つの精神統一のような形を取って入神状態になり、自ずから霊動が出て来ると、自分の魂と霊の世界というものの距離が短くなり、霊界から見た自分の本心が自分に教えるという方法です。これは古代の日本で言われる禊祓(けむり)の行なう方法です。神ながらの宗教には、自己を知るためにこのような方法があるんですね。

戦争中に不敬事件で解散させられたことがあった、大本教というのも神憑かり的な宗教で、その中にいた人達は鎮魂帰神という自己を知る行をしていました。自分の魂、自分の心を鎮めて神の世界に帰る、神と一体になるといふので、鎮魂帰神という言葉で表現している。いわゆる入神状態になった場合、自分の本心が霊の世界に通じてきて、いろいろなことを教えてくれるんです。これは良いことなんです。

ところが、これは自覚に基づいた行動ですから、立派なしつかりした指導者がいなければ危険が伴うんです。入神状態になっている時に、邪霊とか魔神とかいう者が、ひよいひよいと覗きに出て来ることが多いんですよ。仮にそういう者が憑つて来てその指導を受けた場合、それが自分の本当の神様、いわゆる立派な善霊、高級な神様から教えられたものだとか誤解して、とんでもないことになる

んです。

だから大本の場合、仮に不敬な事件が起こったといつても、その内容は知りませんが、それは人間の犯罪ではないと私は思っています。全て神憑かりの口によって指図されたことを、宗教行動に移しただけのものだと思うんです。その時は、邪神が魔神が何かが出て来たのかも知らんですね。そこでしつかりした指導者がいれば、大本教でもああはならなかったと思うんですが、終戦後においては、立派に再起してやっておられます。

そうした鎮魂帰神によって得た自覚というものの、自分というものを知った者は、本を読んで勉強するとか人から聞いた知識によって自分の心を決めるとか、そんな生ちよるいもんじゃなくて、自分の本心から湧いて出て来た神からの教えです。から、これはもう信じ切れるんです。経験の無い者には分からないと思いますが、それを神の声である、神様からのお指図であると感じた場合には、例えば火の中の水の中、あるいは法律を犯そうが何をしようが、それを敢然としてやり抜くだけの迫力と信念を持てるはずなんです。これは大倭では禊のことですけれども、宗教的信念を養成するには、これ以上の方法はないんです。

例えば人の道教団、あるいは観音教団(メシア教)も皆、元は大本教において鎮魂帰神をした結果、あれだけの大教団を創り上げたんです。だから、そうして得た自分の悟り、自分の信念というところで、誰が何と言つても動かすことの出来ない立派な自覚が持てるはずなんです。それで神意に沿ったまっすぐな結果が出れば、これは鬼に鉄棒なんです。今の時代としてはなかなか指導者がいないのですから、そこに邪霊が出て来て、それによって自覚した場合には、とんでもない結果になるので非常に難しいんです。

宗教と政治の関係

今年の四月は選挙が多い月に当たっています。それで、このような政治のことに對しても、宗教の根本というものを良くわきまえないと、非常に厄介な問題が起こってくると思うんです。

この政治と宗教ですね。神道においては「祭政一致」という言葉が使われています。「祭」は神様をお祭りすることで、「政」というのは政治のことですが、それは一つであると昔から言われているんです。

この祭りとは、御輿を出してワツシヨイワツシヨイ騒ぐというようなことだと普通考えられておるんです。それも祭りの中に入らなくても、本質的な祭りとは、古い大和言葉で「まつろ」ということなんです。最近では使わない言葉ですが、大和の方言には着物でも「まつわりついた」とか言います。「祭り」とは、「まつろっていく」ということであって、神様の心の中に無条件で我々が付いて行くということなんです。

そうした古代の祭政一致ということを、そのまま現代に当てはめて行うということではないにしても、最近では宗教団体でも政治に関心を持つてきております。そこで我々宗教団体というものが、果たして政治に関与して良いか悪いかということが今の時代、大きな問題なんです。

宗教的立場からすると、先程言つたように自分を知り、例えば一歩でも前進するように仕上げていくのが宗教の行き方です。一つの例を挙げると、大倭から奈良へ行くこととした時に、ある人は阪奈道路からバスで行く。これは最短コースで時間も速い。別の人は東坂(トウサカ)に出て昔の旧街道から奈良交通のバスで行く。またある人は、山の中をゴン

ゴン歩いて行く人もあるでしょう。

そこで実際に行動に移して奈良へ行くことが政治であつて、その行動に移す前、どのコースで行こうか考えることが心の問題であり、それが宗教の世界なんです。

今選挙で演説会も始まっていますが、誰かが応援演説に行つても、慣れている人は壇上でも平気で堂々と話す。ところが人前に初めて出る人は、普通に言おうと思つても忘れてしまつし声が上がつてしまつし、胸がドキンドキンしてきて、思うことが言えなくなつたりする。家だつたら相槌打つてくれる人もいるから滔々と話せるけど、人の前に立つた時は誰も返事してくれない。何か知らん、頭がすっぱ抜けになつて話せない。同じ人間なのに自分の心の持ち方によつて良く物を言える時と言えない時とが起こつてきます。

結局、そのしゃべり方を巧くやるのが政治で、そこへ行くまでの心の状態が宗教の問題なんです。だから、家の中でも大勢の前でも同じ心の状態に持つていけるような人になれたならば、宗教的に相当精神的な訓練が出来ているはずなんです。自分の心が動揺している場合には、まともなことは言えないけれど、心が本当に落ち着いていれば、どこに出ても一緒なんです。これは政治でも同じことなんです。

政治の技術は、そう難しいことはないんです。政治というものは、政治家の心の表れなんです。立候補する人たちの精神内容を良く知ることが大事なんです。仮に悪質な人が総理大臣になれば、なんぼ民主主義の社会だとか多数決だとか言つても通らないんです。悪質な人は悪質なことがやります。物事の動作というものは、皆心の表れなんだから、政治家に宗教心がなければ、立派な政治家とは絶対言えないんです。

世界の歴史を見てもそうなんです。昔ローマ法王という偉い人がいて、宗教で天下を取っていたんです。キリスト教の力を以て、国境を越えてローマ法王から王冠を貰わなければ王様になれなかった程の権力があり、それでヨーロッパではいろいろな問題が起こったんです。日本でも奈良朝時代に、道鏡という坊さんは孝謙天皇の判まで持つて政治の中に入つて行つたんです。そのようにして、宗教家が政治を牛耳るような世の中になってくると、ローマの二の舞をしなけりやならない。これは絶対良くないんです。宗教は政治ではないんですから、宗教家が政治を執るのは間違つていっているんです。

道鏡のような人がいても、当時の日本の国体には強いところがあつたから揺るがなかつたですが、今のこういう民主主義の社会において、仮に宗教団体が政治に出て来て天下を牛耳る時代が来た場合には、日本は決してうまくいかない。我々みんなが苦しむ社会になるに決まっています。これは、国を滅ぼす元なんです。政治は一つの技術が要るんですから、政治家に任せたらいいんです。結局、政治は表に現れた行動なんだから、その行動をより良くしようと思つたら、政治家の心の中をまず美しくしなければいけない。だから政治は宗教の心から出たものでなければいけないんです。

宗教家としての役割

今のような時代において、宗教というものが、いかに重大な役割をしているかということ、我々は再認識しなくてはならないんです。社会事業も結構、代議士も結構、芸術家であつても学者でも技術家でも、政治家でも商人であつても何で

あつても、世の中の人が一律平等に持たなければならぬのが宗教の心なんです。それは、いろいろなものを流れなければいけないんです。専門的な宗教家を作らなくても、宗教の心を持つた人を世の中社会全般に沢山作つていくということが必要なんです。

ただ大倭教だけが発展したらいいとか、あるいは創価学会だけが大きくなつたらいいとか、そんなものは本当の宗教から見たら問題にならないことなんです。それを今の宗教は非常に大きく取り上げている。ここに大きな間違いがあるんです。だから、今後大倭教だけ発展させて信者を作ろうなどと考えてくれちゃ困る。それよりも大倭の家の子は、まず一步先に自分自身を修める、自分を知るといふことを重点的に考えてほしい。そして、みんなが人間的にある程度出来てくれば、社会の人たち一人一人を、宗教の本質から教化指導していくということも出来る。これは社会に貢献する大仕事なんです。

我々は宗派とか教派とかの問題をなくして、世の中全ての人に宗教の心を持たせなきゃいけないんです。社会の裏のいわゆる心の世界を、政治に出るまでの人間の心の状態を、常に地下水の如くに正しく治めていくというのが、本当の宗教でいく者の大きな役目なんです。だから宗教家というもの、政治家、芸術家あるいは教育者、世の中のいかなる人よりも、一番幅の広い一番大事な職責にあるんです。今の社会においては、こういう宗教が望まれているんですが、それに目覚めてそうした行動を取っている宗教団体があまりにも少ないということをよく知ってほしい。

今日までは、一つの場所に根を下ろして育てる仕事をして参りましたが、これから一、二年の間においては、それだけの自覚をして、今後の大倭

は積極的に対社会的な生命を伸ばしたいと思うんです。その時に皆さんは、まず自分を修めるといふこと、そしてどんどん社会の表に出て、自分の持ち味によつて社会の人を宗教に導くように、大倭教の信者にするという意味ではなくて、宗教心を持たせるといふところに重点を置いて進んでほしいと思つたんです。では終わります。

(文責・編集部)

こぼれずみ

あじさい目 松本モト

一九八七年二月二十三日、神岡鉱山茂住抗の地下メートルの東大宇宙線研究所で、全ての物を貫き通す、極微の素粒子が十六万光年の彼方から来て、南半球から北半球を貫いて、宇宙へ飛び去つて行つた事が観測されたという。

この素粒子は、ニュートリノと名付けられ、存在は立証されているが、誰も見た人はいない。星たちが、死を迎える際、重力崩壊で放出される膨大なエネルギーの九十九パーセントを持ってニュートリノは、光速で抜け出すそうだ。残り一パーセントが衝撃波となり、星は爆発して死を迎えるが、その残骸から再び新しい星が生まれる。

一平方センチメートルあたり約百六億個、人間一人あたり十兆個のニュートリノは、姿・形も見せず、十六万光年の彼方から来て、瞬時に我々の体を通り抜けて行つたと言つのである。

人間も死を迎えた時、魂は姿・形も見せず、瞬時にその人のエネルギーを持って、ニュートリノの様に、抜け出すのだろうか。

ニュートリノの行き先は分からないが、私が死を迎えた時、魂は真直ぐに、法主さまの居られる宇宙へ、行きたいものと思つたのである。

「もれる魂魄の地を訪ねて(第32回)

関ヶ原の望観者

兼田 隆

この数年、ゲームのキャラクターやテレビ、インターネットのおかげで若い女性層の戦国武将ファンが増え、博物館やゆかりの地が賑わっている。魂魄の地である関ヶ原古戦場(写真)も、その観光スポットのひとつとして、戦国ファンを感慨にひたしてくれます。

今回は図らずも望観者となつた武将達を取り上げました。ここでいう「望観者」は広大な戦場地での意味も込めてあえて当て字にしています。

関ヶ原の戦いとは、1600年に徳川家康率いる東軍と石田三成を中心とした西軍が天下を争つて戦つた合戦です。日本中の大名がいずれかに属して戦つたので、天下分け目の戦いと言われています。結果は徳川家康率いる東軍が1日にして勝利します。

敗戦の原因として、西軍は8万4千人の兵士が



①

おりながら、実際に戦闘に参加したのは半分以上の4万人でした。残りの4万4千人は、おのおの陣所で「望観」を決め込んでいます。主だった者として毛利秀元、長曾我部盛親、小早川秀秋、島津義久などがそうです。南宮山の毛利秀元

の陣地には西軍側の使者が何度も訪れていますが、毛利方では、「弁当を

つくって催促を断つたとの事から、「宰相殿(毛利)の空

弁当」と言つて関ヶ原合戦の逸話として残っています。戦後処理として10ヶ国あつた領土は防長2ヶ国に減らされます。

松尾山の小早川秀秋にいたつては、西軍を裏切り敗走させた立役者となります。戦後備前岡山50万石を恩賞としてもらいますが、2年後、21歳の若さでこの世から去り、領地は没収され断絶となります。京都市の瑞雲院には小早川秀秋の墓石があります(写真)。豊臣秀吉の妻、北の政所の甥にあたる関係から菩提寺となりました。住職によりますと、この秀秋の墓石はあまり知られていないとの事です。

島津義久も軍議の相違などから戦闘には参加せずにはいましたが、西軍敗走が決まつた終盤に家康の本陣めがけて突撃し、薩摩隼人の意地を見せま

す。これが「島津の敵中突破」と言われ、現在でも語りぐさとなっています。戦後、家康は島津を恐れてか、所領を安堵します。

この様に、くすれゆく戦場を見た西軍の兵士は、絶望・観に打ちひしがれた事でしょう。江戸時代、毛利家、島津家は外様大名として生き残ります。関ヶ原の戦いから約300年後、「望観者」であつた両藩は、坂本龍馬らの斡旋で薩長連合をむすび、江戸幕府を倒す事になります。



②

交差点10

奈良を地元として

奈良市 杉本 康一

元々古い農家が集まる場所に産まれ育つて、周りは古墳やお寺。そういう環境だと自然と歴史的なモノにも興味を持つのか、年齢的にも落ち着きが出てきた(?)こともあって、最近、京都や奈良などの神社仏閣などを見てまわるのが好きになってきています。恥ずかしながら自分自身、知らないことも多く興味深く見てまわることが出来るし、また地元の奈良だけを見て、まだまだ素晴らしい場所などで、思いがけずに出会う発見が楽しかったりもします。

先日モ大倭殖産の竹内さん・小倉さんとともに、嵐山方面へ花見と散策を兼ねて行ってきました。どこも素晴らしかったのですが、祇王寺という、ひっそりとした庵のようなお寺に惹かれました。それほど広くはないながらも丁寧に手入れされた庭に敷き詰められた苔が美しく、ほっと安心感とともに、時間の流れも忘れそうでした。母方の祖父が小さいながらも寺の住職をしていたことも、影響しているのかも知れません。自分の中

にある、そういう気持は大事にしていきたいです。実家の方でも、毎年、秋には収穫祭として神社から御輿が出るんです。戦中戦後には途絶えていたらしいのですが、私の子供の頃に復活して以来、年々担ぎ手の高齢化もありながらもなんとか、途絶えることなく続いています。

今年、その保存会の会長を父が務めることになり手助けを頼むと言われ、「いいよ」と気安く返事をしましたが、新年会に出てきた議事録に世話役として名前が連なっているのを見てびっくり!諦めて、出来るだけのことはすると伝えてはおきました(笑)。(大倭印刷機) 勤務



阿蘇から 栗山美智子さんを迎えて

座談会 平成21年3月15日

岸野春子(編集部) 自己紹介から。(S19年生) 栗山美智子 生駒市に住んでいて、子育ても一段落した頃、夫(旨則さん)の会社の工場跡地の活用も考え、「ギャラリー未ち古」を始めました。その内に、タンスに眠っている着物をリフォームしてファッションショーをやるということになり、奈良県新公会堂の庭を会場にして、「創作集団えん」と名乗ってやっただけです。(S17年生) 湯浅芳郎 大倭と栗山さんのご縁は、家内(晴子さん)が中学時代の恩師から「ギャラリー未ち古」を紹介されたのが始まりです。(S19年生) 和田保 家内の書道塾の先生が晴子さんと知り合っていて、ファッションショーの写真撮影を頼まれました。「ギャラリー未ち古」で個展もしたし、阿蘇のお宅で撮った根子岳が雑誌の写真コンテストで賞を貰いました。「縁」に感じ入って、自分の写真教室も音を取って「円」にしています。(S4年生) 藤澤千エ子 家が栗山さんの近所で、縫い物が出て来るのでファッションショーをお手伝いしたのがご縁の始まりです。(S17年生) 藤田啓子 「ギャラリー未ち古」のスタッフとして仕事をしていた、栗山さんが阿蘇に引越されたからは「あじさいの箱」のボランティア活動を手伝うようになりました。(S20年生) 岸野 大倭と「創作集団 えん」の係わりは? 湯浅 拜殿を舞台にして平成5(1993)年4月10日、「えん」の主催で榎茂都梅衣華さんの地唄舞と、故大倉佐和子さんの箏曲演奏を上演しました。西行をテーマにし、「花の色に心を染めぬ」

を公演名にしたのは私のアイデアです。事前の3月の文化行事で、広川寺の西行墓に行った時は「えん」からも大勢参加してくれました。当日は桜が満開で、法主さん、カーサンに先祖さんも一杯来ていると大変喜んで頂きました。それで僕は拜殿で色々な催しをするようになったんです。栗山 最初は、晴子さんが大倭神宮に誘ってくれて、法主さんに何か聞けと言っただけです。まあ会社はうまくいきますかと聞いたらいいかな。(笑) それからこちら(大倭紫陽花邑)に来たんです。施設を案内して頂いたのが衝撃でした。初めて目にする世界でした。夫にも見学を勧めました。臭いもなく清潔で、特に働く人達が誠心誠意やっておられるのに夫は心底驚いていました。法主さんは夫に対して、「会社を大きくしようと思ふな。人を育てたら、自然にうまくいくんや」とアドバイスしてくれたんです。法主さんは、遊びにおいて、出来たら自分の横で色々な人の相談事を聞くというように言っていました。

長曽根日子命

栗山 大倭に足を運んでる内に、長曽根日子命の話(ながそねひこのみこと)を聞いて、これは何かしなくてはという気持ちになったんです。日印混血のシャクテイさんという女性のインド舞踊で表現しようと、作曲も頼んでシンセサイザーによる音楽で、平成6年5月21日、「加美理想」を拜殿で上演しました。何か読むものもあるといいねということで、夜、炬燵で書き出したらちよっとおかしいくらいガーツと書きましたね。皆で推敲しながら法主さんの所で読んだら、「こつという手があったんか」と言われましたよ。絵を描いてくれる人もあって、倭伝承 長曽根日子命」という小さな綴じの本にしました。岸野 シャクテイさんは今どうしておられます?

栗山 どうしてるんやろね。昔のことはあまり振り返らない、ほとんど忘れてしまっ。(笑) 藤澤 ファッションショーと「加美理想」で外国にも行かせてもらいましたよ。ロシア、オーストラリア、インド、イギリス……。

栗山 モスクワの赤の広場では、国が大混乱中でも「加美理想」に拍手してくれる人がいましたね。国内でも晴子さんの郷里の岡山県美甘などで上演して、最後が日向(宮崎県)の延岡の春日神社でした。その時、ちょうど連休で宿がなくて阿蘇の方まで行って泊ったんですが、結局、そこに移住することになりました。

父親は若い頃、農民運動をして高知県で投獄されたり一灯園に居たことのあるような人なんです。私が子供時代、体が弱かったので学校へ行かせず、郷里の岐阜の山中で3年程暮らしたことがあります。その後は大阪でしたが、これが自然の中に戻りたいという原点になっていると思います。夫は東大阪出身で、私とは高校時代の同級生でした。大病院で大腸ガンが見付かり奈良県立病院で手術して助かったんですが、その病気のこともあるし、派遣社員とか人を道具のように見る時代も気持ちに合わなくて会社を社員に譲りました。そこは人も育つて今、立派な会社になっています。

移住先は偶然、神武天皇の故地だという幣立神宮が、阿蘇山を挟んで一直線になる所だったんですよ。何か長曽根日子に関係あったのかなあ。

『倭伝承 長曽根日子命』が出来て、人に渡す前に、法主さんに大倭神宮でご挨拶してもらった時、お腹をグウツと抑えて倒れかかって、目に涙を一杯溜めてはるんですよ。霊界から「お前はやつと形にした。形にしたけど、今までの自分達の苦しみを味わえ」と言われたんだそうです。今回、『ながそねの息吹』(野草社刊)を読み直

したんですよ(本を手にしておられる)。長曾根日子命の方が戦は勝っているのに、神武天皇を受け入れて共に平和な国にしていくのが天の心だと悟って退いた。味方がおさまらないので、その気を鎮めるために自ら命を絶つたと言ってますね。こんな王さんが居たって、すごいなあと思う。反対反対って大きな声を出したら戦争が止むものところが、やっぱり一人一人が仲良くするというのが基本やと言わはったわね。

岸野 私は「えん」には傍観者でしたが、最近『倭伝承 長曾根日子命』を読み直し感動しました。

法主さんとの出会い

栗山 私の人生にとって法主さんに教えて頂いたことは大きいです。「盲信はだめ、疑って疑って疑いきらなきゃいけない」と、私は唯物論的な方でしたが、抵抗なく見えない世界を分かせてくれた。「現世やから色んな人と出会えるけど、霊界に行ったら自分のレベルでしか交流できない」「現世は学校や」と言うてはりましたね。

藤田 私も栗山さんと一緒に来ていて、外の世界だったら気遣いかというような会話を、半信半疑ながら聞く期間が大分あったから、意外と受け入れられるようになったと思うんです。

栗山 阿蘇で10年程暮らして夫を自宅で見取った時、死んだら終わりじゃないということに救われました、自分も死んだらまた会えるを知っているから。半年ほど時間があつたのも、ガンという病気のありがたい点です。現世を去るということを前提に夫と色々話し合えました。夫はもう、どんなきれいになっていく感じ、それで大勢の人がサポートに来てくれるはつたんやと思います。64歳でした。夫が「最初に法主さんに会う」と言うので、私はうらやましいと思いましたよ。

行きたかったけど行けなかった、例えばエジプトのシナイ山とか世界中に散骨して、お墓は作っていません。「待ち合わせ場所を探しておいてね」「戦争の無い所で、お金が存在しなくて必要な物だけ手に入れるような所がいい。そういう宇宙がきつとあるという気がする。今度は地球と違う星へ行こうよ」と、そんな話をしました。

湯浅 そろそろ連絡ありませんか。(笑)

栗山 まだやね。段々、こうしたいということも出来てくるし、また楽しくなっていくと思うわ。

阿蘇暮らし

栗山 「お父さんが死んだら、丁ちゃんと一緒に暮らそうと思う」と言うつと、自分もそう思っていたと言いました。夫の大学時代のアイスホッケー仲間の友人が早く亡くなつていて、その奥さんなんです。近くですが別の適当な場所に移つて、その人と一緒に農的な暮らしを始めてから2年程になります。彼女は農家の生まれですが、私は覚えることばかり、悠々自適どころか忙しいんですよ。どうぞ遊びがてら手伝いに来て下さい。(笑)

湯浅 昨秋、私が伺つた折、葡萄を100キロ買ったから葡萄酒にしたいと言うので、一宿一飯のお返しに搾り器の作り方を教えてあげました。

栗山 星空なんか眺めていると、本当に地球だけじゃないなあ、宇宙の発祥に興味が出てきます。法主さんは、普通、神社なんかで神様とは言っているけどあれは人格神であつて、お参りに行くのでなく遊びに行くんや、本当の加美さんは宇宙自然なんだと言われましたよ。奇稲田姫と八岐大蛇の話は172万年前のこととか神話的数字も聞いたでしょ、ひょっとして色んな所に宇宙とのつながりがあるんじゃないかと、ふと思つてね、イースター島とかインカにも行きました。

私は法主さんから「あんたは水に縁があるな。龍神さんがついている」と言われたことがあつて、そんな言われるのイヤでしたけどねえ。ホンマやつたんな、夫と一緒に住んだ場所は、龍神さんが祀つてありました。水源地が気になつて、「お掃除しましょう」と提案しました。元々からの村の人達との付き合いは難しいですよ。私達は知らないで入ってしまったけど、普通はとも無理。やる気が無さそうな返事だったし、当日は大雨になつたし、私達は温泉に行つちゃったんです。ところが帰つてみると村の人は総出でお掃除をしていて、「何してるんや」と怒られました。あわててご飯を用意して許して頂いたということがあります。でもそれからは毎年お掃除を続けてくれています。村の人達との付き合いも切れていませぬが今の近所は新住人が多いんです。阿蘇山という火山のすぐ下で、水源地も多い所だということに、最近、20億の国の予算がついて、産業廃棄物から水素を作る工場の建設計画が持ち上がりました。「これはえらいことや」と、皆に呼び掛けたんですよ。色んなものが絡んでたし「こわいよ」と言われたりしてね。本当にてんやわんやでしたけど、新旧の住人が動いてくれて、結局、計画は中止になりました。

それがまた一つの縁になつて、新しい人脈が出来たりしたんですよ。「ユートピアは、心の中にしかない」と法主さんは言われましたが、それなりの拠点になるといいなという想いはあります。

岸野 紫陽花邑でも失望して出て行く人は多い。栗山 でも、種は蒔いてはるよ。多くの種が芽生えているし、法主さんの器は大きいから、出たつもりでも出られへんわ。

岸野 今日の出会いに感謝して、皆さん、ありがとうございます！
——教務本庁にて

あじさい日記

3月13~15日 大倭会館で、本名、中野英樹こと中野欽二郎さん(栃木県)の「暮らしの器展」が盛況裏に開かれました。

3月15日 大倭神宮月次祭

3月20日 夜、交流の家でF.I.W.C定例委員会。3月3~8日、中国HEKUC村で日本人8名・中国人4名で行われた、村人との交流を目的としたワークキャンプ報告もありました。

3月21日 昭和55年発足以来29年になるボランティアグループ「あじさいの箱」の懇親会。大倭がお供え用の米作りをしている馬場田の近くのイタリア料理店で、参加者12人でさらなる継続のためのステップとしました。

3月28日 夜、大倭会館で大倭町自治会役員会。

3月31日 午後2時から大倭病院会議室で、宗教法人大倭大本宮一般会計と大倭病院の平成21年度予算会議が開かれました。

4月1日 夜、西の齋庭で大倭印刷(株)のお花見会が催されました。少し肌寒い中、花より団子。

4月2日 夜、同じく西の齋庭

昇ちゃん、この日、青山法義さんに映画館に連れていってもらいました。DVDはDVD、連れてけコイルも忘れません。

3月23日 大倭大本宮月次祭。この日は昭和39年3月23日の法話をお聞きしました。

午後4時から大倭会館で、大倭会平成20年度決算・平成21年度予算について幹事会が行われました。

3月28日 夜、大倭会館で大倭町自治会役員会。

3月31日 午後2時から大倭病院会議室で、宗教法人大倭大本宮一般会計と大倭病院の平成21年度予算会議が開かれました。

4月1日 夜、西の齋庭で大倭印刷(株)のお花見会が催されました。少し肌寒い中、花より団子。

4月2日 夜、同じく西の齋庭

第302回 大倭会文化行事 清荒神清澄寺と手塚治虫記念館 —新緑の参詣道散策とマンガの世界—

日時：平成21年5月17日(日) 小雨決行

集合：阪急宝塚線・清荒神駅
北改札出口 11時35分

交通：近鉄学園前発快速9時47分に乗り10時14分難波着、地下鉄御堂筋線で梅田下車、徒歩10分で阪急梅田駅へ、宝塚行急行11時発に乗り清荒神駅下車

ルート：参詣道(徒歩) ⇨ 清澄寺(富岡鉄斎美術館) ⇨ 昼食(食堂) ⇨ 清荒神駅(電車) ⇨ 宝塚駅 ⇨ 手塚治虫記念館

(注意)参詣道は20分ほど歩きますので軽装で来て下さい。

問合せ：湯浅芳郎(携帯)090-6987-5847

で大倭殖産(株)のお花見会。
4月6日 大倭神宮月次祭。夜、大倭会館で邑倭の会。

川崎市的美濃灘さんが来邑して交流の家泊。翌朝大倭神宮にお参りした後、教務本庁で杉本順一さんと歓談、8日の須佐緒祭・園遊会にも参加、皆に見送られて帰りました。

4月8日 午前11時より須佐緒祭が開かれました。
祭典後、拝殿の庇に有志の皆さんの準備してくれたこ馳走が並び、天気はよし桜は満開。ゆつくり遊んで、お抹茶の出る頃には八重垣園の皆さんもたくさん来てくれました。

卒業・入学 中島知佐登さんが高校を卒業。井野智英君が小学校に、矢追知奈都さんが中学校に、竹本謙祥君と反保玲奈さんが高校に入学。皆さんと仲良く出来るよう進んで努力して下さい。

大倭安宿苑では
4月1日 新規採用や異動等に伴う辞令交付式。主なところは茂毛路園の新施設長として矢追美壽紀理事長が兼務で就任しました。

(菅原園)
3月複数日 女性はもろろん男性住死者も、ボランティアさんにネイルアートで爪を綺麗にしてもらい喜んでいました。

(須加宮寮)
3月26日 作業納め会。住死者

49名の1年間の労をねぎらい茶話会をしました。

(長曾根寮)
3月25日 (デイサービス)お鍋の日。テーブル毎にお鍋をつつき、特に一人暮らしの方には好評でした。

3月27日 日頃の尽力に感謝を込めて、ボランティア感謝会を行いました。

4月1日 開設1周年記念日、松花堂弁当の昼食でお祝い。



(八重垣園)
3月14日 オードブルや屋台のお寿司、合唱、カラオケ、舞踊、お茶会等で地域交流会を催しました。

投句箱より、「西行の剃髪の寺花ざかり」、「花冷えの盆地に住みて早や九年」、「混血の曾孫や花の故郷へ」

(俳句の風物) 上田森彦(98歳)もう時間がないという時間見せてくれる(自由律)

秋山秋紅(100歳)急に「おいもう時間が無い

ぞ」。慌て出す二人の姿が、この短い言葉で実によく浮ぶ。あわてて乗った列車が閑かに待っている時間(自由律) 森彦

あんない

* 月次祭(大倭神宮)
5月6日(水・祝) 午後2時より大倭神宮にて。

* 大倭会主催第四八四回裸会
5月10日(日) 午後2時より大倭本宮拝殿にて。

* 月次祭(大倭神宮)
5月15日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

* 月次祭(大本宮)
5月23日(土) 午後2時より大倭本宮拝殿にて。

編集後記

地理的には離れていてもITの普及により、僅かではありませんが、佐渡から編集に参加させて頂いております。

大倭教の教義のことは、恥ずかしながらよくわかっていない私ですが、少なくとも一つだけわかってることがあります。それは今の日本、法主さんが望んでおられたようになっていないということです。

あちからのお言葉を、この世に向けて発し続けるお手伝いという覚悟で取り組んでいきたいと思っています。(一)